

## 令和4年度学校評価

本年度の 重点目標	1 新学習指導要領導入年度にあたり、ICT活用も含めた授業改善を行い、指導と評価の一体化を実践・推進する。 2 生徒が自主自立の精神で学びに向かう姿勢を身に付けられるような学習指導の在り方を工夫する。 3 生徒の自己有用感向上や自己実現のため、多様な価値観に触れたり協働して取り組んだりする部活動や学校行事等への積極的参加を促し、支援する。 4 教職員全体で連携して日常的な生活指導にあたり、生徒の気になる変化や状況には情報を共有し、生徒に寄り添った組織的対応を行う。 5 複雑・多様化する教育課題に対応できるように、教職員が自らの資質・能力向上のために主体的に学ぶ場を設ける。 6 全ての教職員が健康でやりがいを持って教育活動にあたるように、一層の業務改善・在校時間の適正化を図る。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	1 円滑なPTA活動のための支援 2 業務の適切な分担と合理化	1 コロナ禍におけるPTA活動についてサポートと助言を行う。 2 業務の年間予定を作成し、部員全員が全体像を見られるようにする。	1 理事会と連携し、情報を共有する。 2 各業務を行う時期を考慮し、適切な分担を行う。
ICT活用	1 ICTを活用した業務改善 2 ICTを活用した授業改善 3 ICTを活用した学校の魅力発信方法の検討	1 会議・打合せのペーパーレス化、アンケート機能等利用による担当者の入力作業軽減、採点ソフト導入による観点別評価の負担軽減を進める。 2 ICT機器を活用し、生徒へのフィードバックを意識した授業改善を推進する。 3 HPをリニューアルし、更新しやすい環境を整える。また新しい学校の魅力発信方法を検討する。	1 他校の例を参考にしながら、本校にあったペーパーレス化等の業務改善を提案していく。 2 まずは教員がICT機器を活用しやすい環境の整備を進めていく。
教務部	1 観点別評価の確立 2 新校務支援システム導入による職員の業務効率化	1 教科主任会やカリキュラム委員会を通じて、各教科の観点別評価の情報共有を進め、改善に繋げる。 2 新校務支援システムの様々な機能を最大限活用し、業務の効率化を進めていく。	1 順次移行していく新カリキュラムにおける生徒の学習改善及び教員の指導改善につながる評価方法を確立する。 2 年度の早い段階で新校務支援システムの整備を進め、研修等を通して職員への使い方を周知する。また、各種機能を業務の効率化へ落とし込めないか考える。
図書研究部	図書館の環境整備と読書啓発活動の推進	1 館内レイアウトの工夫など、館内環境を整備する。 2 広報活動の推進により、生徒の読書意欲を高める。	1 館内レイアウトを工夫し、親しみやすく利用しやすい図書館づくりを推進する。 2 校内掲示や「図書館だより」の定期的発行など、図書館からの情報発信に努める。
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の高揚 2 安心・安全な学校づくりについての自主性の養成	1 遅刻防止指導や身だしなみ指導及び交通安全指導の徹底を行う。 2 日常的な指導や集会、ST等を通して自他を思いやる姿勢の涵養を図る。	1 指導はできるだけ複数で行い、指導後は担任、学年団、部活動顧問など関係職員で情報共有して対応する。 2 アンケートやネットパトロールなどで得られた情報を活用し、いじめ防止や安心・安全な生活についての取り組みを徹底する。
特活部	本校の魅力の一つである学校祭や部活動の活性化及びその取り組みを通じた主体的な人間性や社会性の育成	1 生徒会が学校祭を企画・運営し、各責任者のリーダーシップの下、感染症対策を万全にし、全生徒の協力で創り上げる。 2 部活動や体育祭ブロックの異学年交流や、クラス活動を通して、人間関係や責任ある態度を主体的に学ぶ。	1 学校祭LTを有効活用できる全体計画を立てる。学校祭期間中は、感染症対策だけでなく、熱中症等の安全面にも配慮する。 2 部活動は日数や時間、場所を有効に利用し、効率的な練習を工夫する

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導部	生徒が生涯にわたるライフプランをふまえて、主体的に進路実現に向かう力を養う。	1 3年間を見据えた進路指導体制を検討し、生徒の可能性を高める情報を提供する。 2 生徒自らが考え学習できる環境を整え、進路を切り開く力を養う。	1 最後まで力を伸ばして進路を実現できるよう、指導体制を整える。 2 進路資料室の機能を高め、入試情報の提供等、生徒が活用できるように整備する。
保健厚生部	感染症予防のための生活習慣の確立と環境整備	1 毎日の検温と健康観察を徹底し、体調不良者の早期把握に努める。 2 頻回の換気の実施と清掃時の換気、シャボンネットを使用した手洗いの徹底、アルコールによる手指消毒を指導する。	1 家庭に検温と健康観察への協力を求め、朝のS Tでの健康観察と記録を徹底する。 2 放送で換気と黙食、手洗いを呼びかけ、清掃監督の教員に指導の協力を要請する。 3 熱中症指数の表示と部活動顧問への協力を要請。
商業科	1 学習指導要領の改訂に伴う観点別評価の実施と評価規準の研究 2 連携教育の推進	1 科目の特性を生かした評価方法の確立に向けた研究に取り組む。 2 総合ビジネス科生徒の進路選択に係る視野を広げるべく産学連携、高大連携の学習活動を積極的に取り入れる。	1 指導者の評価疲れを起こさないような工夫を施すとともに、担当者間での共有のしやすさに重点を置く。 2 単発の特別授業実施だけでなく、複数回にわたる継続的な連携教育を展開することにより生徒の学びを深める。
学年	3年	1 最高学年としての自覚ある態度の涵養 2 進路実現に向けての進路指導体制の確立	1 第3学年としてリーダーシップを発揮できるよう自覚を促し、卒業後の進路を見据えて責任ある行動がとれるよう支援する。 2 各教科・分掌と情報を共有し、考査・補習・自主学習等を通して生徒の学習意欲を引き出し、学力の向上を支援する。
	2年	1 自ら考え、行動できる態度の育成。 2 進路希望を明確にし、そこへ向けて主体的に学習する姿勢の確立。	1 学年集会やホームルームでの指導、授業や部活動、修学旅行の準備などを通して、教師の指示を待つだけでなく、生徒が自ら考え、指示をして行動する場面を多く設定する。 2 進路サポートや講話を通して、具体的な進路目標を定めさせる。また、実現に向けた学習への取り組みについて考えさせる。
	1年	1 高校生としての生活習慣の確立 2 自分の将来を考える態度の育成	1 予習・復習や週末課題などで学習習慣をつけさせるとともに、高校生にとって必要な礼儀・あいさつ・時間の厳守を身につけさせる。 2 進路サポートやICT機器を活用し、早期に自分の将来について考える機会をつくる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		①「主体的・対話的で深い学び」を実現するための、指導と評価の一体化に係る研究を進めるとともに、ICT機器等の活用をより推進する取組。 ②生徒の生活実態や人間関係を日常的に把握し、学校生活にかかわるトラブルを未然に防止する組織的取組。(継続) ③教職員間のコミュニケーションを活発化して業務をより効率的・合理的に進め、教職員が主体的に学び合いながら、生徒への効果的指導と教職員の負担軽減に繋げる取組。	